

JAたまなの取り組み

農業所得アップを目指して

営農サポート制度



平成25年よりスタートしたJAたまなの独自の取り組み。熟練生産者・JAのOBらが圃場を巡回し、新規就農者や生産者を支援します。

また、若手指導員との巡回指導により、若手指導員の指導技術の向上を図っています。

有害鳥獣対策プロジェクト

平成28年度より、捕獲隊の組織支援、狩猟免許取得支援、イノシシ捕獲支援など、JAたまな独自の有害鳥獣対策を行っています。



マルチ被覆支援



高齢生産者の圃場のマルチ被覆作業を部会を挙げて支援。マルチ栽培（適正被覆）の普及を目指しています。

「重点市場との連携」「契約取引」による販売力強化



組合長や常勤役員、生産部会役員が重点市場へ出向きトップセールスを展開。玉名産農産物の知名度向上と有利販売、また予約・契約・相対販売による販売価格の安定化を図っています。

生産資材のコスト低減

予約購買による価格の引き下げ、低コスト商品や大型規格品の普及拡大を図っています。また、価格対策費として「大型農家対策」「集落営農組合対策」「園芸農薬価格対策」を対策費として支払っています。

肥料

- プライベートブランド肥料15品目・低コスト肥料15品目の普及
- 平成30年度より予約分の自己取り:1袋30円の値引き対策

農薬

- 大型規格品24品目・低価格農薬31品目の普及
- イチゴ育苗対策52品目・園芸害虫対策44品目の価格対策
- ジェネリック農薬の普及拡大

販売資材

- 低コスト原紙（段ボール）の普及、青果物包装容器（通いコンテナ）の普及

多収米を本格導入

多収米「やまだわら」の栽培で国内外の外出需要の獲得に力を入れています。平成26年に1.5haで試験栽培をスタート。29年産は63haで栽培。販売量は約32tで、約35倍に増加しました。



すみよい地域社会を目指して

地域意識の向上



未来に伝えたい農業・農村・伝統の保全とふるさと意識の向上を目的に「きらめきフォトコンテスト」を実施。また、青壮年部による「わが町農産物ポスターコンクール」では、地域の農業に対する意識向上を図っています。

子どもたちへ食農教育



親子での農業体験を通じ、農業への理解を深め魅力を知ってもらおうと、平成16年度より「親子わくわく体験農園」を毎年開講。また、健康な体作りとJAを身近に感じてもらうと平成25年から「JAたまなカップ少年サッカーリーグ」を開催。

女性のための学習活動



管内の20～50代の女性を対象に「きらめき女性カレッジ」を開催。平成25年度の開始から受講生は延べ100名を超えています。

地産地消とJAのファン作り

JA事業利用者への還元企画イベントとしてイチゴ狩り体験を開催。また、JAたまな産の農産物が当たる定期貯金キャンペーンを展開し、地産地消を図っています。

